

美術科

創造活動を通して、環境や社会から価値を見つけ獲得できる生徒の育成

武田 聡一郎

1 主題設定の理由

(1) 共通研究主題との関連

美術科では、共通研究主題「学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒を育成するカリキュラム・マネジメント」を受け、「学びの意義」や「自ら学び続ける生徒」について、次のように捉えた。

まず、「学びの意義」について、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説美術編」では、「教科の目標は、小学校図画工作科における学習経験と、そこで培われた豊かな感性や、表現及び鑑賞に関する資質・能力などを基に、中学校美術科に関する資質・能力の向上と、それらを通じた人間形成の一層の深化を図ることをねらいとし、高等教育学校芸術科美術、工芸への発展を視野に入れつつ、目指すべきところを総括的に示したものである」と示されている。また、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編」では、「一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される」とある。美術科では、これまでの研究で取り組んできた美術科に関する資質・能力の向上の視点とともに、美術科の枠を超えた人間形成の視点を持ち、予測が困難な時代において、題材や授業を通して生徒が何を学ぶのかについて考えていくことが重要であると捉えた。

次に、「自ら学び続ける生徒」について、清田（2018）の「創造性が社会と出会う美術教育」の学習モデル（Art Education Nurturing Creativity through Encounters with Society, 以下 ANCS と表記）をもとに考えた。美術科では、授業を通して、生徒が夢や願いとしての課題発見と解決を繰り返すことにより、社会の中でも自分の願いとして課題を見つけ、それを叶えるように解決へと向かうのではないかと捉えた。（図 1）

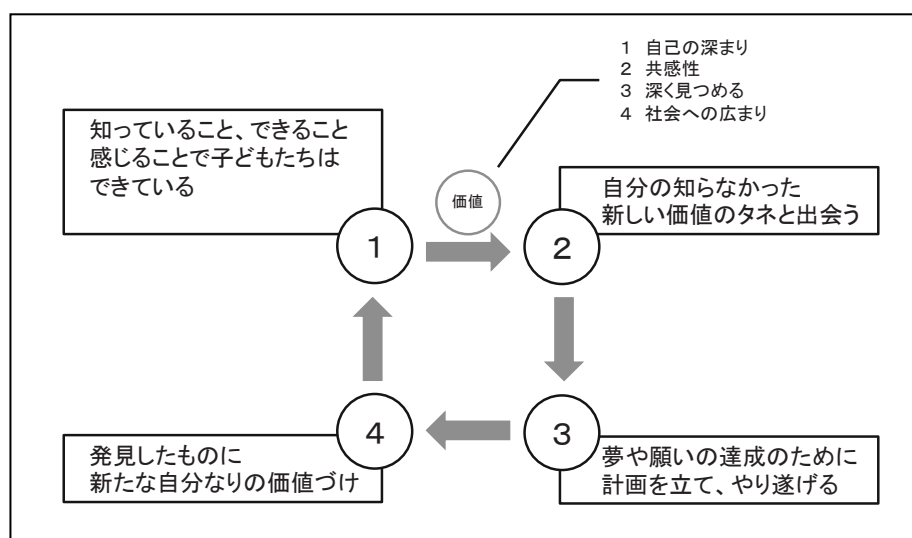


図 1 ANCS の学習モデル

(2) これまでの研究との関連

前回研究の第1次では、「日本の美術文化」に焦点をあて、育成を目指す資質・能力を、「日本的な表現のよさや美しさを造形的な視点で深く感じ取り、日本の伝統や文化を価値あるものとして捉えたり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできる資質・能力」とし、第2学年において単元構成を行った。第2次では、各題材で育成を目指す資質・能力を整理し、その育成のためのカリキュラム・デザインを行った。しかし、各題材で育成を目指す資質・能力やカリキュラムの妥当性について、十分に検証することができたとは言えない。また、人間形成の視点でも各題材やカリキュラムについて考える必要がある。そこで本研究では、「ANCSの学習モデル」をもとに、題材や授業から生徒が何を学ぶのかについて明確にしたいと考えた。また、題材の前後でアンケート調査を行うことで、題材やカリキュラムの妥当性について検証したいと考えた。

(3) 生徒の現状と課題

第1学年を対象に、「図画工作での経験」について、アンケート調査を実施した。その結果から、当たり前のことではあるが、各小学校によって題材は様々であり、材料や用具の経験も様々であることがわかった。また、「図画工作で思い出に残っていること」という質問に対して、「〇〇を描いたこと」や「〇〇をつくったこと」など、活動内容について答えた生徒が多かった。美術を学ぶ意義について、資質・能力と人間形成の側面から改めて考え、実感させることが必要であると考えた。

以上のことから、美術科の研究主題を、「創造活動を通して、環境や社会から価値を見つけ獲得できる生徒の育成」とした。

2 目指す生徒像

美術科が目指す生徒の姿は、創造活動を通して、夢や願いとしての課題発見・解決を繰り返す姿である。そして、環境や社会から価値を見つけ獲得しようとする姿である。

3 研究計画・経過

(1) 研究計画

- ① 対象生徒 本校第1学年及び第3学年
- ② 研究期間 令和2年4月～令和3年3月
- ③ 検証方法 アンケート調査

(2) 研究概要及び経過

年度当初に、題材やカリキュラムの作成を行った。その際、「ANCSの4つの育みの視点(清田2018)」から、各題材のねらいを設定した。(表1・2)

ANCSの4つの育みの視点	
1 自己の深まり	…自分で感じたこと、考えたこと、やり遂げたことに対しての自己への理解と受容
2 共感性	…友達や他者が大切にしているものや苦しみ、喜び等への共感
3 深く見つめる	…自然や環境の中にあるものを含め、美しいな、素晴らしいなと思える感受
4 社会への広まり	…社会の中にある地域文化やまだ知らない価値への好奇

作成したカリキュラムに基づき、実践を進めている。また、6月と11月にアンケート調査を実施し、3月にもう一度アンケート調査を実施する予定である。

R2 第1学年 美術科													
月	時	題材	内容	ねらい	ANCS								
					1	2	3	4					
4	1	オリエンテーション	鉛筆で描く	■感覚を通して、美しいやおもしろいと感じるものを見つけようとする。	○	○	○	○					
5	休	かげをつかまえる	制作	■光源との距離や光の角度等を工夫して影をつくり、写し取ることを通して、ものと光と影の関係について考え、身のまわりや自然の中にある美しさやおもしろさを感じ取ろうとする。	○	○	◎	○					
		〇〇になる！ポポポポーズ！	制作	■身体を動かしたり、形をつくったりすることを通して、自身の身体の内存在を自覚しようとする。 ■身体を使って、ものや生き物、気持ちなどの特徴を抽象化することで、身のまわりにあるものへの理解を深めようとする。	○	○	◎	○					
6	2	かげをつかまえる	相互鑑賞	■光源との距離や光の角度等を工夫して影をつくり、写し取ることを通して、ものと光と影の関係について考え、身のまわりや自然の中にある美しさやおもしろさを感じ取ろうとする。	○	○	◎	○					
	3	〇〇になる！ポポポポーズ！	相互鑑賞	■身体を動かしたり、形をつくったりすることを通して、自身の身体の内存在を自覚しようとする。 ■身体を使って、ものや生き物、気持ちなどの特徴を抽象化することで、身のまわりにあるものへの理解を深めようとする。	○	○	◎	○					
7	4	あの日あの時あの気持ち	感情を絵の具で表す	■過去の自分を振り返り、目に見えない感情を色や塗り方を工夫して表すことで、心の動きを視覚的に捉えようとする。	◎	○	○	○					
	5		感情を紙粘土で表す①										
6	感情を紙粘土で表す②												
7	制作①												
8	制作②												
9	制作③												
9	10	私たちの色見本	制作④	■自分たちがつくった色をならべかえることを通して、自分と他者の感じ方や考え方の共通点や相違点を認め合おうとする。	○	○	◎	○					
	11		撮影・相互鑑賞＆振り返り										
10	12	色をならべる	色のしくみを理解する	■存在しない漢字を、文字や絵のイメージを組み合わせることを通して、新しいイメージを生み出そうとする。	○	○	◎	○					
	13								多様な文字と出会う				
	14	レタリングの練習											
	15	制作①											
	16	制作②											
	17	制作③											
	18	制作④											
11	19	勘字クッキング	制作⑤	■現在の自分を見つめ、形や色彩、塗り方や組み合わせ方等を工夫して表すことを通して、自己理解を深めようとする。	◎	○	○	○					
	20								撮影・相互鑑賞・振り返り				
	21	らしさってなに	自己をみつめる						■身の回りにおけるデザインをUDの視点で見つめ、作り手の思いを汲み取ろうとする。 ■多様な他者の価値観を知り、自分の考えとの共通点や相違点を踏まえ、お互いの考えを尊重する方法や手立てを見つけようとする。	○	◎	○	○
	22		制作①										
	23		制作②										
	24		制作③										
	25		制作④										
26	制作⑤												
12	27	やさしさのデザイン	制作⑥	○	◎	○	○						
	28		撮影・相互鑑賞・振り返り										
	29		やさしさのデザインへの気づき										
12	30	やさしさの通知表	発表会	○	◎	○	○						
	31							やさしさのデザイン					
	32							発表会					
1	33	多様なラベルと出会う	小学校6年生が感じている不安を考える	■小学校6年生の立場に立ち、相手の気持ちに寄り添おうとする。後輩にメッセージを伝えることを意識し、形や色彩、構成などを工夫し、ラベルとして表そうとする。	○	◎	○	○					
	34								制作①				
	35								制作②				
2	36	後輩たちへ贈るスペシャルドリンク	制作③		○	◎	○	○					
	37								制作④				
	38								制作⑤				
3	39	制作⑥	撮影・相互鑑賞・振り返り		○	◎	○	○					
	40								制作⑥				
	41								撮影・相互鑑賞・振り返り				

表1 各題材と4つの育みの視点（第1学年）

R2 第3学年 美術科								
月	時	題材	内容	ねらい	4つの育み			
					1	2	3	4
4	1	オリエンテーション	鉛筆で描く	■感覚を通して、美しいやおもしろいと感じるものを見つけようとする。	○	○	○	○
5	休	私に似たもの発見	撮影	■身のまわりにあるものや風景に自己を投影することや、他者から見た自身のイメージを受け取ることで、自分を多様な視点から捉えようとする。 ■他者ともものや風景の共通点を考えることで、他者のよいところを見つけようとする。	◎	◎	○	○
		地球にのって、まわる私	撮影	■五感をとおしてうつりゆく光を感じ取ることで、自然や美しいもの、生活や生命について追求しようとする。	○	○	◎	○
6	2	私に似たもの発見	相互鑑賞＆振り返り	■身のまわりにあるものや風景に自己を投影することや、他者から見た自身のイメージを受け取ることで、自分を多様な視点から捉えようとする。 ■他者ともものや風景の共通点を考えることで、他者のよいところを見つけようとする。	◎	◎	○	○
	3	地球にのって、まわる私	相互鑑賞＆振り返り	■五感をとおしてうつりゆく光を感じ取ることで、自然や美しいもの、生活や生命について追求しようとする。	○	○	◎	○
	4	名前のない形	制作①	■自分がつくった形に他者からのイメージをもらうことで、多様な見方や考え方を受け入れ、理解しようとする。	○	◎	○	○
	5		制作② 相互鑑賞					
	7	6	未来の私、今の私	形のトレーニング	■形や色彩を用いて自分を表現すること、自己との対話を深め、夢や願い、自己の可能性を見つけようとする。			
7	今の自分と未来の自分の形を考える							
8	制作①							
9	制作②							
10	制作③							
11	制作④							
12	制作⑤							
13	相互鑑賞＆振り返り							
10	14	新しい計測の道具	「曖昧なもの」や「漠然としたもの」への気づき	■「はかれたらいいな」と思うものをイメージし、視覚化することを通して、社会のしくみや課題の構造に気づき、解決しようとする。 ■道具を使用する際の人の動きや行為に着目し、使いやすい形状を導こうとする。	○	○	○	◎
	15		制作①					
	16		制作②					
11	17	私と社会をつなぐ椅子	相互鑑賞＆振り返り	■椅子をつくることを通して、自分と社会との関わり方を追求しようとする。 ■また、友達の多様な生き方を受容しようとする。				
12	18		多様な椅子と出会う					
	19		木を触りながら、椅子のイメージを持つ					
12	20		木を触りながら、椅子の構想を練る					
	21		主題や制作方法について話し合う					
	22		制作①					
	23		制作②					
1	24		制作③					
	25		制作④					
	26		制作⑤					
2	27		制作⑥					
	28		制作⑦					
3	29		制作⑧					
	30		写真撮影					
	31		相互鑑賞＆振り返り					

表2 各題材と4つの育みの視点（第3学年）

4 実践の概要

(1) 1年生の実践例

① 紙パレット展

生徒が授業中に制作で使用した紙パレットを展示する「紙パレット展」を常時美術室で行っている。展示は強制ではなく、自分が残したいと思うパレットができたときにクリップで留めていくというものである。出来上がった作品だけではなく、作品が出来上がるまでの過程に目を向けることをねらいとしている。他者の紙パレットから自分とはちがう混色の仕方や筆致の跡に気づいたり、色をつくる際に試行錯誤をしたりする姿が見られた。（図2）



図2 紙パレット展

② ○○になる！ポポポポーズ！

■身体を動かしたり、形をつくったりすることを通して、自身の身体の内存在を自覚しようとする。（自己の深まり）

■身体を使って、ものや生き物、気持ちなどの特徴を抽象化することで、身のまわりにあるものへの理解を深めようとする。（深く見つめる）

・題材の概要

身のまわりのものや生物、感情などを、自分の身体を使って表した（図3）。考えたポーズは写真に撮ったり、絵で描いたりした。相互鑑賞では、写真や絵を見ながら、ポーズが何を表しているのかについて考え、互いのポーズを実際にやってみるなどの活動を行った。ワークシートには、「実際に表現してみると、身近な物の形が改めて分かりおもしろかった」「表現するときどこがどう動くのか考えることができた」などの記述があった。

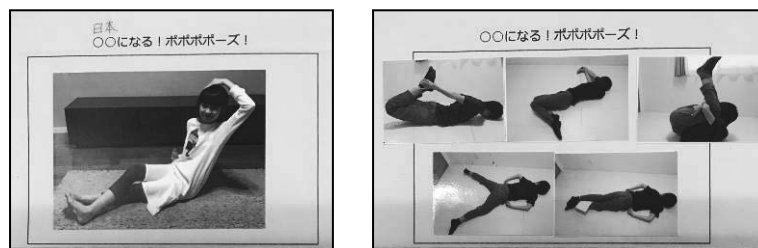


図3 生徒作品

③ らしさってなに？

■現在の自分を見つめ、形や色彩、塗り方や組み合わせ方を工夫して表すことを通して、自己理解を深めようとする。（自己の深まり）

・題材の概要

様々な道具を使って、新しい塗り方を見つける活動を行った後、現在の自分を見つめ、そのイメージを色や塗り方を工夫して表した（図4）。相互鑑賞では、作品の色や塗り方から感じるものと、友達のイメージを考えながら鑑賞を行った。振り返りには、「どうしたら自分らしさが表れる塗り方になるか、そもそも自分らしさって何？という問いを持ちながら絵の具の濃さを変えたり、道具を使い分けたりした」などの記述があった。



図4 活動の様子

(2) 3年生の実践例

① 地球に乗って廻る私

■五感を通して、うつりゆく光を感じ取ることで、自然や美しいもの、生活や生命について追求しようとする。（深く見つめる）

・題材の概要

同じ風景の写真を、時間帯を変えて3枚撮影し、それらを比べてみて、感じたことや考えたことを記述するという活動を行った（図5）。ワークシートには、「私たちの生活は光と関係しており、光をもとに生活しているのだと思いました」「普段考えることはないけど太陽が作る陰は私たちが地球上で生きていることを表しているのではないかと感じた」「まわりの環境が変わることによって見るものがちがう、という考え方より自分たちが動くことによって見えるものの変化を楽しむ、という考え方はとても良いと思った」などの記述があった。

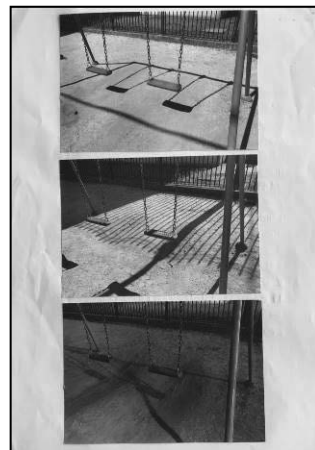


図5 生徒作品

② 新しい計測の道具～これがはかれんとだメジャー～

■「はかれたらいいな」と思うものをイメージし、視覚化することを通して、社会のしくみや課題の構造に気付き、解決しようとする。（社会への広まり）

■道具を使用する際の人の動きや行為に着目し、使いやすい形状を導こうとする。（共感性）

・題材の概要

まだ人類が「測ることができないもの」について考え、現在やこれからの社会にとって「測れたらいいな」と思うものをイメージし、それを測るための道具を紙粘土で制作した。社会の中にある「曖昧なもの」や「漠然としているもの」について、クラスで共有した後、自分が「測れたらいいな」と思うものを、形や色彩・質感・用具の使い方などを考えながら立体に表した。相互鑑賞では、実際に身体を動かしながら、自分の考えた道具について説明したり、友達の考えた道具について意見を述べたりするなどの活動を行った（図6）。ワークシートには、「私は心の広さを測りたいと思ったのだけど知って良いことと知りたくないこともあるから難しいと思った」「はかりたいものははかりたいものであるからこそ人間と調和を保っているのかもしれないと思った」などの記述があった。

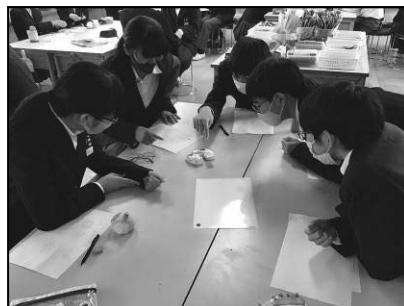


図6 相互鑑賞の様子

③ 私と社会をつなぐ椅子

■椅子をつくることを通して、自分と社会との関わり方を追求しようとする。（社会への広まり）

■友達の多様な生き方を受容しようとする。（共感性）

・題材の概要

社会の中のどこかに置く椅子というテーマで、様々な椅子を鑑賞する活動を行った後、木を材料に制作を行った（図7）。「椅子をどこに置きたいか」や、「どのような人やものに座ってほしいか」などを考えることを通して、自分と社会の関わり方について考えを深めることをねらいとした。制作途中で新たなアイデアが浮かんでデザインを変更する姿や、他者と協力して木材の切断や接合に取り組む姿が見られた。



図7 制作の様子

5 成果と今後の取り組み

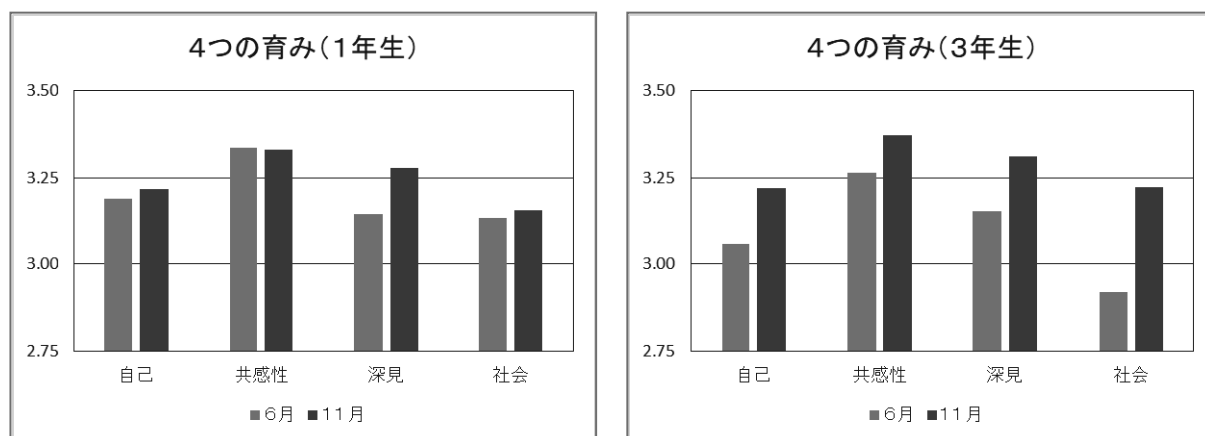


表3 アンケート調査の結果と4つの育み

1年生と3年生を対象に行ったアンケートの結果をまとめると、表3、表4のようになった。4つの育みの視点で見ると、1年生は「共感性」の数値が減少しているのに対して、3年生は「共感性」の数値が上昇している。また、「自己の深まり」と「社会への広まり」は、1年生・3年生ともに上昇しているが、3年生の方が1年生より伸び幅が大きい。各質問項目で見ると、1年生・3年生ともに特に上昇している項目として、4「これまでとは異なる新しい視点を求め、柔軟に考えを変えることができる」、9「新しい知識や技能を得るために、自ら調べたり、練習したりする」、10「作品を作るときに、他の教科で学んだことを活かしている」、11「自分がいいな・美しいと思うことやものをとことん追求する」、15「観察するとき、感覚（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）をすべて活用する」、22「作品を作りながら、新たな自分を発見している」が挙げられる。

一方、3年生でのみ特に上昇している項目として、1「粘り強く、最初は成功しなくても、成功するまで挑戦し続ける」、2「よく考えてから、行動にうつす」、6「自分の仕事を見直して、的確に、そして正確に行う」、7「日常生活の中で、なぜだろうと思うことを見つけ、その答えを探る」、8「問題を解決するために自分が学んだことを別の場面に活かす」、21「わからないことがあったら、わかるようになるまで学び続ける」などが挙げられる。

題材との関連として、1年生は、11月までに「共感性」や「社会への広まり」を主なねらいとした題材が少ない。また、「あの日あの時あの気持ち」など、過去の経験から、自分自身や他者について考える題材が多い。3年生は、11月までに「共感性」や「社会への広まり」を主なねらいとした題材がいくつかある。また、「地球にのって、まわる私」や「未来の私、今の私」など、スケールの大きいものや、より遠くにあるものについて考える題材が多い。題材だけがアンケートの結果に影響しているとは言えないが、4つの育みのねらいとの関連はあるのではないだろうか。今後の取り組みとして、引き続き4つの育みをねらいとしたカリキュラムの実践とアンケート調査を行う。その際、各題材のねらいについて再検討したい。また、生徒の記述等、質的な検証も行いたいと考えている。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説総則編』
- 2) 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説美術編』
- 3) 清田哲男・上田久利・大橋功・藤原智也(2018)
『こどもが夢を叶える図工室・美術室 創造性が社会と出会う造形教育(ANCS)をめざして』
- 4) 大橋功・新関伸也・松岡宏明・藤本陽三・佐藤賢司・鈴木光男・清田哲男(2018)
『美術教育概論(新訂版)』
- 5) 岡山大学教育学部附属中学校(2018)『研究紀要 第53号』
- 6) 岡山大学教育学部附属中学校(2019)『研究紀要 第54号』
- 7) 岡山大学教育学部附属中学校(2020)『研究紀要 第55号』

アンケート集計結果		1年生				3年生			
質問項目		1	2	3	4	1	2	3	4
1	私は粘り強く、最初は成功しなくても、成功するまで挑戦し続けます。								
2	よく考えてから、行動にうつします。								
3	私は理解したり、共感したりしながら他の人の話を聞きます。								
4	これまでとは異なる新しい視点を求め、柔軟に考えを変えることができます。								
5	問題を解決しようとする時、自分がどのように考えているかを意識しません。								
6	私は自分の仕事を見直して、的確に、そして正確に行います。								
7	日常生活の中で、なぜだろうと思うことを見つけ、その答えを探ります。								
8	問題を解決するために自分が学んだことを別の場面に活かします。								
9	新しい知識や技能を得るために、自ら調べたり、練習したりします。								
10	作品を作るときに、他の教科で学んだことを活かしています								
11	私は、自分が「いいな」「美しいな」と思うことやものをとことん追求します。								
12	分数の計算よりも、小数の計算の方が早くできます。								
13	手順が示されていても、他のやり方を試します。								
14	私は学んだ言葉を適切に用いて、自分の考えを正確に伝えます。								
15	観察するとき、感覚(視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚)をすべて活用します。								
16	私は新しいアイデアを生み出す方法がわかりません。								
17	私には、世界の中に、興味のある面白いものがたくさんあります。								
18	初めてのことで、失敗を恐れずに挑戦し、新しいアイデアや方法を試します。								
19	私は笑顔で、色々な場面で、ユーモアを見つけることができますが、他人をばかにしたり、からかったりしません。								
20	私は他の人と協力したり、他の人のために尽くしたりします。								
21	私はわからないことがあったら、わかるようになるまで学び続けます。								
22	作品を作りながら、新たな自分を発見しています。								
23	自分とは考えが違う人でも信頼して、協力し合います。								
24	体調が悪くなると、すぐ薬を飲みます。								
1: あてはまらない 2: どちらかといえばあてはまらない 3: どちらかといえばあてはまる 4: あてはまる									

表 4 アンケート調査の結果